

# 第 19 回日本集団災害医学会総会・学術集会

## 第四次会告

第 19 回日本集団災害医学会総会・学術集会

会 長：大友 康裕

(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 救急災害医学分野 教授)

会 期：平成 26（2014）年 2 月 25 日（火）～26 日（水）

会 場：東京国際フォーラム  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3 丁目 5 番 1 号  
TEL：03-5221-9000  
<http://www.t-i-forum.co.jp/>

会 長：大友 康裕  
(東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 救急災害医学分野 教授)

メインテーマ：『災害医学～全ての医療者が学ぶべきもの～』

協 力：東日本旅客鉄道株式会社

後 援：内閣府政策統括官（防災担当）、厚生労働省、文部科学省、消防庁、東京都、  
日本医師会、東京都医師会、独立行政法人国際協力機構、全国消防長会、  
全国衛生部長会、全国保健所長会、大規模リハビリテーション支援関連団体協議会

参 加 費：一般（会員・非会員）：12,000 円、学生（大学院生含まず）：1,000 円  
※事前登録はありません。当日、受付にて参加登録をしてください。  
※学部学生の方は、当日、受付にて「学生証」をご提示ください。

プ ロ グ ラ ム：

2 月 25 日（火）13：55～14：25

会長講演「わが国で実効性ある災害医療を構築するには –DMAT を誕生させた経験から–」

座長：小井土雄一（独立行政法人国立病院機構災害医療センター 臨床研究部）

講師：大友 康裕（東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 救急災害医学分野）

2 月 25 日（火）11：30～12：10

招待講演 1

「A Discipline of Disaster Medicine and Public Health: Achieving Global Health Security」

座長：山本 保博（日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院）

講師：James J. James

(Executive Director, the Society of Disaster Medicine and Public Health)

2 月 25 日（火）11：30～12：10

招待講演 2 「Disaster Medicine Education and Training: *Global Milestones and Standardization*」

座長：前川 和彦（ツル虎ノ門外科・リハビリテーション病院）

講師：Raymond E. Swinton

(Professor, Division of Emergency Medicine, Department of Surgery

Director, EMS, Disaster Medicine and Homeland Security Section

University of Texas Southwestern Medical Center at Dallas)

2月26日(水) 13:20~14:00

招待講演3「克災：歴史に学び巨大地震に備える」

座長：辺見 弘（独立行政法人国立病院機構災害医療センター 名誉院長）

講師：福和 伸夫（名古屋大学減災連携研究センター）

2月26日(水) 8:00~9:40

特別セッション8：全国衛生部長会・全国保健所長会／日本集団災害医学会 共催セッション

基調講演

「災害における公衆衛生人の役割：災害時健康危機管理支援チーム（DHEAT）を中心に」

尾身 茂（元 WHO 西太平洋地域事務局長・健康保険福祉施設整理機構）

2月25日(火) 9:50~11:30

特別セッション4：災害医療とリスクコミュニケーション

基調講演

「東日本大震災でのリスクコミュニケーション」

吉川 肇子（慶応義塾大学商学部商学研究科）

2月26日(水) 9:40~11:20

特別セッション11：大都市でのテロに対する医療対応について —東京オリンピックに備えて—

基調講演

「NBC 災害の様相とその対応」

中村 勝美（陸上自衛隊 研究本部 第2研究課 特殊武器研究室）

2月25日(火) 15:30~16:00

教育講演1「災害医療に求められる精神医療対応」

座長：藤井 千穂（旭川荘南愛媛病院）

講師：金 吉晴（国立精神神経医療研究センター 災害時こころの情報支援センター）

2月25日(火) 16:00~16:30

教育講演2「災害時医療の新たな課題：「防ぎえる死亡」に加えて「防ぎえる生活機能低下」対策を」

座長：上原 鳴夫（東北大学 名誉教授）

講師：大川 弥生（(独) 国立長寿医療センター 生活機能賦活研究部）

2月25日(火) 16:30~17:00

教育講演3「手術室から見た東日本大震災：東北・関東の病院のアンケート調査から」

座長：福家 伸夫（帝京大学ちば総合医療センター 救急集中治療センター）

講師：福田 幾夫（弘前大学大学院医学研究科 胸部心臓血管外科）

2月26日(水) 10:30~11:00

教育講演4「震災と下肢深部静脈血栓症(DVT)」

座長：小濱 啓次（川崎医科大学 名誉教授）

講師：榛沢 和彦（新潟大学医歯学系呼吸循環外科、新潟大学災害・復興科学研究所）

2月26日(水) 11:20~11:50

教育講演5「災害と人間、その本質を前提とする災害医療

～誰のために、何をするのか、自分の頭で考える～」

座長：浅井 康文(雄心会函館新都市病院)

講師：石井美恵子(北里大学看護学部 臨床看護学)

2月26日(水) 13:20~13:50

教育講演6「トリアージを含む、災害医療の法律上の問題点と対策

～安心して災害医療に取り組めるために～

座長：野口 宏(愛知県救急医療情報センター)

講師：永井 幸寿(アンサー法律事務所)

2月25日(火) 9:50~11:28

優秀演題1

座長：鶴飼 卓(兵庫県災害医療センター)

和藤 幸弘(金沢医科大学救急医学講座)

1-1「災害拠点病院におけるエレベーター：東日本大震災に関する調査とこれからの対策」

久志本成樹(東北大学大学院医学系研究科 外科病態学講座救急医学分野)

1-2「災害に強い病院づくりへ向けて：東日本大震災後の医療施設被害状況と全国の防災減災対策」

越智 小枝(相馬中央病院 膠原病リウマチ内科)

1-3「災害医療に実践的な Mission Oriented Business Continuity Plan 作成の取り組み」

工藤 大介(東北大学病院 高度救命救急センター)

1-4「東日本大震災における死者と地形との関係について」

小山 真紀(京都大学工学研究科・医学研究科 安寧の都市ユニット)

1-5「災害急性期における医療支援で、災害医療コーディネーターは“ビッグデータ”を活用できるか」

布施 明(日本医科大学付属病院 高度救命救急センター)

1-6「福知山花火大会爆発事故における医療支援活動の実際」

小林 誠人(公立豊岡病院 但馬救命救急センター)

1-7「被災地の脳卒中は増えていない：第9報～岩手県沿岸南部より～」

山野目辰味(岩手県立大船渡病院 救命救急センター)

2月26日(水) 9:20~10:30

優秀演題2

座長：浅利 靖(弘前大学大学院医学研究科 救急・災害医学講座)

奥寺 敬(富山大学医学部救急災害医学分野)

2-1「大規模災害時における一般市民の医療支援の在り方についての検討」

中田 敬司(東亜大学医療学部医療工学科)

2-2「次の災害に備えて病院「受援力」を向上させるために：

～被災地医療機関の「受援計画」に関するアンケート調査から見えてきたこと～

佐々木 宏之(東北大学 災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野)

2-3 「災害時における通信体制のあり方」

小澤 和弘（愛知医科大学病院高度救命救急センター）

2-4 「京都府福知山市の花火大会爆発事故における兵庫県対応 県境を超えて」

川瀬 鉄典（兵庫県災害医療センター）

2-5 「国際都市捜索救助チームの被災国受け入れと活動調整の仕組み」

杉田 学（順天堂大学医学部附属練馬病院 救急・集中治療科）

2-6 「局地災害発生！災害のスイッチは誰が入れる？

～長野道梓川 SA 付近多重衝突事故に出動して～

池田 武史（社会医療法人財団慈泉会相澤病院 集中治療科）

2-7 「東日本大震災ファクトブック（2012年度版）の作成」

出口 真弓（日本医師会総合政策研究機構（日医総研））

2月26日（水）14：00～15：00

優秀演題3

座長：横田 裕行（日本医科大学附属病院 高度救命救急センター）

大橋 教良（帝京平成大学地域医療学部 医療スポーツ学科）

3-1 「被災地自宅生活者や非被災地への避難者における活動性の低下と DVT リスク」

植田 信策（石巻赤十字病院 呼吸器外科）

3-2 「災害弱者（入院患者など）の広域避難に関する検討 ―初期被ばく医療機関の視点から―」

越智 元郎（市立八幡浜総合病院 救急部）

3-3 「医療機関における「BCP マニュアル」作成の基本」

堀内 義仁（横浜市立横浜市民病院）

3-4 「福知山花火大会における爆発事故対応」

高階謙一郎（京都第一赤十字病院 救急科部）

3-5 「医療機関の立地を考える：執行猶予期間の約四半世紀をどう活かすか」

小村 隆史（常葉大学 社会環境学部 社会・安全コース）

3-6 「東日本大震災後の一次避難所と二次及び遠隔避難所の

環境アセスメントスコアと下腿 DVT との関連」

榛沢 和彦（新潟大学 災害・復興科学研究所、新潟大学大学院呼吸循環外科）

2月25日（火）15：30～17：00

パネルディスカッション1：災害医学教育の現状

座長：嶋津 岳士（大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター）

小倉 真治（岐阜大学大学院医学系研究科 救急・災害医学分野）

PD1-1 「プライマリ・ケア医/総合診療医/家庭医専門医を対象とした災害研修の構築」

林 健太郎（国立保健医療科学院 健康危機管理研究部）

PD1-2 「災害医療の初学者向けコースである日本集団災害医学会セミナーにおける

トリアージ実技教育の実状と課題」

久野 将宗（日本医科大学多摩永山病院 救命救急センター）

PD1-3 「Hospital MIMMS から日本標準へ :

わが国の大事故災害における院内対応の標準プログラム策定の提言」

森村 尚登 (MIMMS 日本委員会)

PD1-4 「国立保健医療科学院における健康危機管理研修の改革」

原田 奈穂子 (防衛医科大学校)

PD1-5 「多数傷病者への対応標準化トレーニングコース (MCLS) シミュレーション結果の考察」

山下 友子 (佐賀大学医学部 救急医学講座)

PD1-6 「大学間連携による防災教育の新たな試み : 四国防災・危機管理特別プログラム」

萩池 昌信 (香川大学 防災教育センター)

2月26日(水) 8:00~9:20

パネルディスカッション2 : マスギャザリング対策

座長 : 森村 尚登 (横浜市立大学大学院医学研究科)

勝見 敦 (武蔵野赤十字病院 救命救急センター)

PD2-1 「大規模市民マラソンにおける災害医療システムと傷病者に対する

新しいトリアージの導入について」

守川 義信 (市立奈良病院 循環器内科)

PD2-2 「マスギャザリング医療支援報告 : 市民参加型トライアスロン大会の現場救急医療体制の構築」

高橋 耕平 (横浜南共済病院 救急科)

PD2-3 「わが国におけるマスギャザリングに対する現場救急医療体制の策定基準」

森村 尚登 (日本集団災害医学会 マスギャザリングイベント医療検討委員会)

PD2-4 「通常救急患者が祭礼時に受ける影響についての検証~予定された集団災害としての岸和田祭」

鈴木 慧太郎 (岸和田徳洲会病院 救命救急センター)

PD2-5 「わが国へのインシデントコマンドシステム導入」

永田 高志 (九州大学大学院医学研究院先端医療医学部門災害・救急医学分野)

2月26日(水) 13:20~14:58

パネルディスカッション3 : 災害医療コーディネーター

座長 : 坂本 哲也 (帝京大学医学部 救急医学講座)

甲斐 達朗 (大阪府済生会千里病院 千里救命救急センター)

PD3-1 「災害保健医療コーディネーター全都道府県調査」

江川 新一 (東北大学 災害医療国際協力学)

PD3-2 「高知県災害医療コーディネーター研修の実施と今後の展望」

川内 敦文 (高知県 健康政策部 医療政策・医師確保課)

PD3-3 「今後の大災害への災害医療 ACT 研究所の取り組み」

石井 正 (東北大学病院 総合地域医療教育支援部)

PD3-4 「災害医療コーディネーターを中心とした包括的な災害医療支援体制の構築 (第2報)」

中川 儀英 (東海大学 医学部附属病院)

PD3-5 「日本赤十字社災害医療コーディネーターチームの設置について

—救護班単位から組織単位への災害医療救護へ—

勝見 敦 (武蔵野赤十字病院)

- PD3-6 「保健所長が務める新潟県の災害医療コーディネートシステム  
ー2006年からのコーディネート研修会で何が変わったか?ー」  
内藤万砂文（長岡赤十字病院 救命救急センター）
- PD3-7 「災害医療コーディネーター制度が機能するために不可欠なもの」  
中山 伸一（兵庫県災害医療センター）

2月25日（火）8：40～9：50

特別セッション1：南海トラフ巨大地震対応

座長：近藤 久禎（独立行政法人国立病院機構災害医療センター 臨床研究部）  
川内 敦文（高知県健康政策部医療政策・医師確保課）

概要：南海トラフの巨大地震において想定される被害は甚大である。従来の広域医療搬送の考え方では十分な対応できない。本セッションでは、南海トラフ巨大地震に対してのDMAT派遣、医療搬送の限界を明確にする。そのうえで、圧倒的な医療資源不足の中で必要となるトリアージの考え方を整理する。更に、今すぐにでもできる医療資源、病院キャパシティーの拡大の可能性を提示する。これらの報告をもとに南海トラフ巨大地震対策として、まず今やるべきことを明らかにする。

「南海トラフの想定とDMAT活動の限界」

市原 正行（独立行政法人国立病院機構災害医療センター）

「地域医療搬送の限界ー南海トラフ地震ー」

中村 光伸（前橋赤十字病院 高度救命救急センター 集中治療科・救急科）

「南海トラフ巨大地震対応のトリアージ：医療資源配分から考える」

森野 一真（山形県立救命救急センター）

「病院のキャパシティー拡大の可能性ー上野総合市民病院の事例ー」

明比 俊（愛媛県立新居浜病院 外科）

2月25日（火）8：40～9：50

特別セッション2：災害看護のアウトカムー結果評価、成果を見据えた災害看護活動を考えるー

座長：野嶋佐由美（高知県立大学大学院看護学研究科  
災害看護グローバルリーダー養成プログラム）  
佐々木吉子（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科）

「宮城県看護協会の活動を通して」

佃 祥子（公益社団法人 宮城県看護協会）

「ケアの提供支援から対応計画の企画支援へーアウトカムを見据えたより有益な支援を目指してー」

石井美恵子（北里大学看護学部）

「災害復興対策：特定機能病院の治療の継続性を保証する計画」

中原るり子（東邦大学看護学部）

「共同大学院ー災害看護グローバルリーダー養成プログラム」

山本あい子（兵庫県立大学地域ケア開発研究所）

2月25日(火) 8:40~9:50

特別セッション3: 災害医療認定薬剤師

座長: 西澤 健司 (東邦大学医療センター大森病院 薬剤部)

奥村 順子 (長崎大学熱帯医学研究所)

「災害認定薬剤師に求められる役割」

近藤 祐史 (日本赤十字社医療センター 脳神経外科 救急科)

「JMAT 携行医薬品リスト Ver.1.0」

永田 高志 (九州大学大学院医学研究院先端医療医学講座 災害・救急医学分野)

「薬剤師災害教育の実践と今後の展望」

小林 映子 (日本赤十字社医療センター薬剤部 / 国際医療救援部)

「災害急性期における薬剤師の必要性~DMAT と薬剤師の職能発揮~」

藤江 直輝 (大阪府立急性期・総合医療センター 薬局)

「災害時医療救護における災害薬事コーディネータ活動」

西森 郷子 (高知県健康政策部医事薬務課)

「災害医療における薬剤師に対する標準的教育コースの必要性」

渡邊 暁洋 (日本医科大学千葉北総病院 薬剤部)

2月25日(火) 9:50~11:30

特別セッション4: 災害医療とリスクコミュニケーション

座長: 中村 通子 (朝日新聞社)

奥村 徹 (日本中毒学会 理事)

概要: 災害時に、どのように情報を届けるのか。これは、人々の命や健康を守る災害医療において極めて重要であることは言うまでもない。しかし「適切な情報を適切に伝える」ことはそうたやすくはない。今回の特別セッションでは、吉川肇子・慶応大学教授(組織心理学)の基調講演に続き、3人のパネリストに行政・科学・メディアのそれぞれの立場から災害時のリスクコミュニケーションについて語っていただく予定である。その上で、会場の皆様と一緒に「次」に向けての効果的なリスクコミュニケーションのあり方を探っていきたい。

「災害時のリスクコミュニケーション -医療コメンテーターの重要性-」

奥村 徹 (日本中毒学会 理事)

「感染症とリスクコミュニケーション」

岡部 信彦 (川崎市健康安全研究所)

「防災報道のリスクコミュニケーション」

西野 和志 (NHK 報道局)



2月25日(火) 9:50~11:00

特別セッション5:大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会との共催セッション  
「災害とリハビリテーション」

座長:栗原 正紀(大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)  
小早川義貴(国立病院機構災害医療センター)

概要:近年、急性期リハビリテーションの重要性が認識されてきた。ある個人が病気になったとしよう。もとの暮らしには帰るためには、医療機関での適切な急性期治療に加え、多職種連携による急性期からの適切なリハビリテーションが必要である。災害においても同様である。災害医療というと急性期のイメージをもつ人々が多いかもしれない。確かに急性期の初動を誤れば以降の対応に大きな弊害が生じるが、災害サイクルにおける急性期はごく一瞬であり、かつ被災地外からの支援も一時的なものである。地域における復興の過程は個人におけるリハビリテーションの過程と類似する点が多い。残された地域機能を活かしながら、いかに復興していくか。それは自立の過程でもある。本セッションでは個人と地域、平時と災害、急性期と慢性期などそれぞれの階層を行き来しながら、東日本大震災で様々な活動を展開した各演者と共に、災害とリハビリテーションについて考えていく

「災害とリハビリテーション」

小早川義貴(国立病院機構 災害医療センター)

「東日本大震災後の地域リハビリテーション支援活動

～震災前からの地元のつながりを活かして～

後藤 博音(宮城県北部保健福祉事務所)

「東日本大震災を体験し私たちにできることーネットワークを活かすー」

千葉 喜弘(一般社団法人 福島県介護支援専門員協会)

「災害リハビリテーション支援の組織化:JRAT 設立経緯報告」

栗原 正紀(大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)

2月25日(火) 11:00~12:10

特別セッション6:災害保健医療活動マニュアルの標準化に向けて

座長:上原 鳴夫(東北大学 名誉教授)  
甲斐 達朗(大阪府済生会千里病院 千里救命救急センター)

「災害保健医療活動に対して、プライマリ・ケアが果たす役割とは?」

大橋 博樹(プライマリ・ケア連合学会)

「精神医療からみた災害時マニュアルについて」

金 吉晴(国立精神神経医療研究センター 災害時こころの情報支援センター)

「災害時の公衆衛生看護活動ガイドラインの作成および

保健チームと医療チームの役割分担と連携について」

松本 珠実(大阪市保健所感染症対策課(全国保健師長会常任理事))

「各種標準指針の比較と、調整が必要と思われる事項について」

吉澤 大（国立国際医療研究センター国際医療協力局）

2月25日（火）15：30～16：40

特別セッション7：災害医療におけるロジスティクスについて

座長：近藤 久禎（独立行政法人国立病院機構災害医療センター 臨床研究部）

中田 敬司（東亜大学医療学部救急救命コース）

概要：災害時における医療支援活動においてロジスティクスは重要な役割を果たすことは言うまでもない。その業務は人員・物資の輸送・調達、通信環境整備・情報伝達及び収集、記録や他の支援団体他との調整他多岐にわたる。今回はそのロジスティクス活動を実施する拠点として高速道路におけるSA等を活用して訓練を実施した。その報告と今後課題を検討する。

「参集拠点としてのSA—土山SAでの活動より—」

高階謙一郎（京都第一赤十字病院 救急科部）

「高速道路施設は参集拠点・ロジスティクス拠点として機能できるか

～豊田東インターチェンジの場合～」

中込 悠（社会医療法人財団慈泉会 相澤病院）

「DMAT訓練に置ける高速SA/ICを参集拠点にする事についての検証」

大野 龍男（国立病院機構災害医療センター）

「高速道路の休憩施設における危機管理強化」

宮澤 正隆（中日本高速道路株式会社 保全・サービス事業本部 企画統括チーム）

2月26日（水）8：00～9：40

特別セッション8：全国衛生部長会・全国保健所長会／日本集団災害医学会 共催セッション

災害における公衆衛生人の役割：災害時健康危機管理支援チーム（DHEAT）を中心に

座長：高野 健人（東京医科歯科大学大学院健康推進医学分野）

坂元 昇（川崎市健康福祉局）

「全国保健所長会の取り組み」

中瀬 克己（岡山市保健所）

「大分県におけるDHEAT（Disaster Health Emergency Assistance Team）の試み」

藤内 修二（大分県中部保健所）

「都道府県の災害時保健医療マニュアルの現状」

佐久間文明（千葉県健康福祉部）

「Disaster Health Emergency Assistance Team: DHEAT 要員の平時の訓練」

中村 好一（自治医科大学 公衆衛生学教室）

「災害保健医療支援に向けた研修システム」

金谷 泰宏（国立保健医療科学院 健康危機管理研究部）

2月26日(水) 8:00~9:20

特別セッション9: 首都直下地震対応

座長: 小井土雄一(独立行政法人国立病院機構災害医療センター 臨床研究部)

猪口 正孝(東京都医師会)

概要: 首都直下地震への対応は、待ったなしであることは、関係諸機関誰もが認めるところであり、着々と準備が進められている。しかしながら、関係諸機関がお互いに他機関が如何なる計画を持っているのか精通しているとは言いがたい。被害想定においては、負傷者15万人、重症患者2万が予想されている。この数の傷病者に対し、防ぎえた災害死なしに対応することは至難の業であると思われるが、最大の鍵は、諸機関連携であることは言うまでもない。本特別セッションにおいては、各演者よりそれぞれの機関における最新の準備状況をご説明願ひ、ディスカッションにおいては、互いに相手に何を望むのかという連携をテーマに討論したい。特に2万の重症患者を如何に搬送し、収容し、後方搬送するのか? 災害関連死を防ぐために、災害弱者に対して如何に対応するか? その中で各機関がどのような役割分担をするのか詰めた話がしたい。

「東京都の災害医療体制(首都直下地震対応)」

宮野 収(東京都福祉保健局医療政策部救急災害医療課)

「甚大な被害が想定される地域の東京都地域災害医療コーディネーターの役割」

磯谷 栄二(東京女子医科大学東医療センター救急医療科)

「文京区地域防災計画(平成24年度修正)と準備態勢」

鈴木 秀洋(前文京区危機管理課長・現男女協働・子ども家庭支援センター担当課長)

「東京消防庁における首都直下地震対応」

矢島 務(東京消防庁 救急指導課)

「陸上自衛隊衛生における首都直下型地震対応」

菊池 勇一(陸上自衛隊 陸上幕僚監部 衛生部)

「東京都医師会における首都直下型地震対応」

猪口 正孝(東京都医師会)

「東京都における災害時の医薬品供給体制及び薬局の役割」

谷崎希実子(東京都 福祉保健局 健康安全部 薬務課)

2月26日(水) 9:20~10:30

特別セッション10: リスクの高い地域の災害医療対策の現状と課題

座長: 森野 一真(山形県立救命救急センター)

本間 正人(鳥取大学医学部器官制御外科学講座 救急・災害医学分野)

概要: 東日本大震災後、南海トラフをはじめとする海溝型地震の被害想定の見直しが行われた。リスクの高い太平洋沿岸地域では防災計画の変更が急務であるが、地域により地理、人口密度、道路分布などが異なり、解決すべき課題も様々である。本セッションは、太平洋沿岸の地域において、現在計画されている防災計画の特徴や実働訓練から明らかとなった課題などの報告をもとに、共通する課題、地域固有の課題を明確にし、その解決の糸口や今後の展望について議論する。

「静岡県医療救護計画の改定について」

村松 聡（静岡県健康福祉部地域医療課）

「三重県における災害医療対策について」

森戸 美樹（三重県健康福祉部医療対策局地域医療推進課）

「和歌山県における災害医療体制の構築」

貴志 幸生（和歌山県福祉保健部健康局医務課地域医療班）

「高知県における大規模災害時の保健医療福祉対策の組織横断的な総合調整体制の検討」

田上 豊資（高知県健康政策部）

2月26日（水）9：40～11：20

特別セッション11：大都市でのテロに対する医療対応について ―東京オリンピックに備えて―

座長：山口 芳裕（杏林大学医学部救急医学教室）

阿南 英明（藤沢市民病院 救命救急センター）

「東京消防庁の特殊災害対策の現状」

竹内 栄一（東京消防庁 救急部 救急医務課）

「東京都の災害医療体制（大都市でのテロに対する医療対応について）」

宮野 収（東京都福祉保険局医療政策部救急災害医療課）

「日本 APEC における災害医療体制」

近藤 久禎（独立行政法人国立病院機構災害医療センター 臨床研究部）

「2013年ボストン・マラソン爆発事件における米国の多数傷病者対応に学ぶ」

永田 高志（日本医師会総合政策研究機構）

### 日本医師会認定産業医研修【専門：1単位】（予定）

2月26日（水）13：50～15：00

特別講演「特別セッション12」：惨事ストレスが支援者・被災労働者のこころに及ぼす影響

座長：重村 淳（防衛医科大学校 精神科学講座）

山崎 達枝（岐阜医療科学大学 保健科学部）

概要：災害時、救援・支援業務従事者（以下、支援者）の業務は猛烈な苦悩を生じさせる。傷病者・遺体・遺族との関わりによって甚大なストレス（惨事ストレス）を受け、情報が不足したり錯綜したりするなか決断を求められ、途轍もない過重労働にさらされる。支援者自身が被災している場合、自分自身や家族の安全が十分に確保できないなか、不眠不休で働くことは、後々に深い自責感・不全感を残すこととなる。支援者が惨事ストレスへの知識・資料・心構えを事前に持っていれば、その負担は多少なりとも和らげることができる。しかし、その対策が不十分なまま災害現場に関わると、惨事ストレスは支援者のメンタルヘルス、そして職業人生に大きな影響を及ぼしうる。実際、多くの研究は、災害時メンタルヘルスの高リスク者として支援者を挙げている。このシンポジウムでは、東日本大震災後の支援者のメンタルヘルス研究(Shigemura J et al, JAMA 2012 など)、そして何より、支援者の「語り」を通して、災害前・中・後における惨事ストレス対策上の課題を考えていきたい。また、複合的災害の中で勤務

する福島原子力発電所職員のストレス分析は、他の過酷な労働環境を強いられている労働者のメンタルヘルスマネジメントにも大いに参考となることから、今後の産業衛生活動に必要な知識をふまえて講演する。

「複合的なストレスが福島第一・第二原子力発電所職員のメンタルヘルスに及ぼし続ける影響」

重村 淳（防衛医科大学校 精神科学講座）

「被災地域の看護師を支え続けるために求められること」

山崎 達枝（岐阜医療科学大学 保健科学部）

「東日本大震災における DMAT 隊員の外傷後ストレス症状とその症状緩和の試み」

松岡 豊（国立精神・神経医療研究センター トランスレーショナル・メディカルセンター）

「東日本大震災における福島県での歯科身元確認作業従事者を対象としたメンタルヘルス調査」

染田 英利（防衛医科大学校 防衛医学講座）

2月26日（水）11：00～11：50

動画セッション

座長：中山 伸一（兵庫県災害医療センター）

玉井 文洋（社会医療法人三愛会 大分三愛メディカルセンター）

1 「模擬避難所設営を通じた市民と行政担当者への簡易ベッドの有用性の認識促進」

植田 信策（石巻赤十字病院 呼吸器外科）

2 「広域医療搬送訓練の想定被災地における訓練状況の共有に向けた取り組み～愛知ロジ会～」

酒井 智彦（社会保険中京病院 救急科）

3 「映像伝送システムと汎用サービスを用いた静止画配信の併用の利点

－福島県飯舘村での多数傷病者訓練から－

田代 雅実（福島県立医科大学附属病院 放射線部）

4 「東日本大震災における自動ラップ式トイレの活用事例」

佐久間快枝（日本セイフティー株式会社 ラップポン事業部）

2月26日（水）10：40～11：50

緊急報告「フィリピン台風災害への医療支援」

座長：大友 康裕（東京医科歯科大学大学院 歯学総合研究科 救急災害医学分野）

小井土雄一（独立行政法人国立病院機構災害医療センター 臨床研究部）

2013年11月に発生した台風30号（Haiyan、Yolanda）の被害に対する支援はまだ継続しており、いまだ災害全体を俯瞰する段階ではありませんが、学会員の情報共有のために、本学術集会において、現地で活動した国際緊急援助隊（JDR）医療チーム、自衛隊国際緊急援助統合任務部隊（医療・航空援助隊）、NPO 災害人道医療支援会（HuMA）医療チームから緊急報告を行っていただきます。多くの聴講者を期待します。

2月26日(水) 17:00~18:00

全国災害拠点病院連絡会議

災害時の医療提供については、阪神・淡路大震災を契機として災害拠点病院が整備され、平成25年4月1日現在、全国で653病院が指定されるまでに至っています。東日本大震災を経験し、災害拠点病院のさらなる充実が求められていることから、災害拠点病院における経験や課題を共有し、病院間で意見交換することを目的として、全国災害拠点病院連絡会議を開催することといたしました。

講演「災害時医療提供に係る厚生労働省の取組みと今後の方針」

長谷川 学(厚生労働省医政局 災害医療対策室長)

水野 浩利(同 指導課災害時医師等派遣調整専門官)

※代理・複数名(3名まで)まで出席も構いません。

※学術集会に参加されない方も出席いただけます。その場合、参加費は不要です。直接、会場(Bブロック 7F ホール B7(1))までお越しください。

※資料は会議当日に配布いたします。

※旅費・その他の支給はございませんので、予めご了承ください。

2月26日(水) 18:00~19:00

DMAT 連絡会議

DMAT 運用にかかる事項等について関係施設の方々へお知らせし、災害発生時の迅速なる派遣体制の整備に役立てて頂くことを目的として、DMAT 連絡会議を開催いたします。

議事(案)(1) 各ブロックでの訓練の実施状況について

日本 DMAT 検討委員会

(2) 厚生労働省 DMAT 事務局からの事務連絡

厚生労働省 DMAT 事務局

※対象者: DMAT 登録者、DMAT 指定医療機関担当者、都道府県災害医療担当部局担当者、その他関係機関の担当者等

※学術集会に参加されない方も出席いただけます。その場合は、直接、会場(Bブロック 7F ホール B7(1))までお越しください。

※資料(次第)は会議当日に配布いたします。説明資料は後日、EMISに掲載いたします。

※旅費・その他の支給はございませんので、予めご了承ください。

その他、共催セミナーおよび一般演題を予定しております。

特 別 企 画：

2月25日（火） 14：30～15：30

「全日本メディカルラリーチャンピオンシップ（山本保博代表理事杯）」

協力：東日本旅客鉄道株式会社

競技開催場所：東京駅地下1階・京葉地下丸の内口前

競技参加チーム：下記の各地域主要メディカルラリー大会での優勝した6チーム

北海道・東北代表：山形メディカルラリー

関東代表：千葉県メディカルラリー

中部代表：信州メディカルラリー

関西代表：千里メディカルラリー

中国・四国代表：さぬきメディカルラリー

九州・沖縄代表：福岡メディカルラリー

いずれも平成25年開催ラリーに参加したチーム

ブース運営団体： 下記の災害教育コースの各種団体が各ブースを担当する。各団体の教育のコンセプトにあったシナリオと評価方法で参加チームに得点を与えます。

- ・日本集団災害医学会セミナー(JADMS)、
- ・日本 DMAT 隊員養成コース
- ・MCLS コース
- ・MCLS-CBERN コース
- ・NDLS コース

※優秀チームには副賞を贈呈します。

2月25日（火） 17：00～18：00

「病院災害対策マニュアル・コンペティション」

※当日は、ポスターパネルに病院災害対策マニュアルの資料を掲示していただき、上記発表時間に病院担当者にパネル前に待機していただきます。（マニュアル原本も会場に準備）

※参加者には優れたマニュアルに投票していただき、1位には懇親会で表彰式を行い、副賞を贈呈します。皆様、是非ご投票にご協力をお願いします！

2月26日（水） 17：00～18：00

「市民公開講座」

都心ターミナル駅周辺エリアの防災活動における「市民－医療」連携体制について

－「市民－医療」連携事例の報告と連携の必要条件－

事例報告

「新宿駅における取組（昼間区民向け医療救護所の顛末）」

田中 真人（日本赤十字社 東京支社）

「杉並・中野における取組（「市民と病院」の連携の動向）」

連携活動の担当者

「平常時連携の仕組みづくり・非常時連携に必要な制度整備」

太田 祥一（東京医科大学救急医学講座）

「非常時連携に必要な施設整備・東京駅における取組

（「市民－病院」連携の動き、臨時医療救護所の整備）」

守 茂昭（一般財団法人都市防災研究所（東京駅周辺防災隣組））

パネルディスカッション

コーディネーター：守 茂昭

パネリスト：事例報告者全員

プレ・ポストコンGRESS プログラム：

プレコンGRESS企画

a) 日本集団災害医学会セミナー

日本集団災害医学会セミナー（以下、JADMS と略）は、本学会の主旨を受ける形で、災害時の医療に携わるあらゆる職種を対象に、災害医療の基礎知識と技術の修得を目的としたセミナーを、1997年より定期的に継続開催しております。一方、わが国の災害医療対応システムとしてDMATが整備され、最近では消防や警察などとDMATとの連携を目指した多数傷病者への医療対応標準化コース；Mass Casualty Life Support (MCLS) コースも立ち上がり、あらゆる職種の連携が重要視されています。そんな中で、われわれ日本集団災害医学会セミナー委員会は、JADMSを災害医療に関する教育コースの入門として位置付け、災害時の医療に携わるあらゆる職種を対象に、座学や大規模災害時の医療機関における傷病者受け入れ体制の確立に重点を置いた机上およびトリアージシミュレーション(START法とPAT法)をとおして、災害医療の基礎知識および技術を学ぶ機会を提供することを目的に2012年からは開催回数を増やし、災害医療対応への教育の啓蒙を行っております。

日 程：2014年2月24日（月）

時 間：9：00～17：30（受付開始8：40）

※時間は若干変更される場合がございます。

会 場：日本赤十字社東京都支部

〒169-8540 東京都新宿区大久保1丁目2番15号 TEL：03-5273-6741

※当日連絡先：080-3434-6617（セミナー事務局）

参加資格：災害時の医療に携わる可能性がある方ならどなたでも受講可能です。

募集人数：受講生32名・オブザーバー5名

受 講 料：日本集団災害医学会会員 15,000円

同非会員 18,000円

オブザーバー 3,000円（テキスト代は別途2,000円）



## b) Psychological First Aid (PFA) セミナー

サイコロジカル・ファーストエイド（PFA）とは、被災者や犯罪被害者に心理社会的支援を提供するためのスキルである。二次被害を避け、尊厳を守り文化に配慮し、支援者も保護するための枠組みが示されている。メンタルヘルスへの直接的な働きかけというよりも、被災者に寄り添いながらニーズを確認し、耳を傾け、必要なサービスに結びつけることで安全や安心を確保する。各種のPFAのなかで2011年に世界保健機構（WHO）が中心となってリリースしたものは、精神保健の専門家のみならず幅広い職種の支援者にも普及しやすく、また専門家による支援だけを前提としていないという特徴がある。作成にあたっては、専門家によるコンセンサスと先行研究のエビデンス情報が用いられており、国際的な支持を得ている。災害時こころの情報支援センターでは、このPFAの精力的な研修、普及を行っており、救急医療の関係者にも、是非とも身につけていただきたい。

日 程：2014年2月24日（月）

時 間：13：00～17：00

会 場：東京医科歯科大学内（ホームページでご案内します）

参加資格：特になし

参加人員：100名

参加費用：10,000円（学術集会参加者1,000円）

参加申込：ホームページでご案内します。

## c) MCLS-CBRNE コース（特殊災害コース）（試行コース）

化学、生物、放射線、爆発物等による特殊災害（CBRNE 災害）では、通常の大規模交通事故による多数傷病者事案や地震などの自然災害とは異なる対応が求められる。消防、警察機関など関係機関は特殊な防護設備を用いた部隊を展開し、防護、除染、ゾーニングなどの現場対応を実施する。一方、現在は災害事案に対してDMATが現場へ派遣されることが日常化しつつあるが、CBRNE 災害であることは事前には分からず、後に判明することが多いと予測され、嫌をなく特殊災害現場での活動することになる。よって、CBRNE 災害での現場活動の注意事項や多数の関係機関がどの様な考えと方針に基いて活動するのかを知ることは、良好な連携のために非常に重要である。通常、訓練を通して連携を深めるが、頻繁に CBRNE 災害に関する実動訓練で実施することは多くの困難を伴い容易ではない。そこで、幅広く関係機関が机上でシミュレーション訓練をする MCLS の概念を発展させ、CBRNE 災害に特化したコースを開発中である。医療者以外に消防、警察、海上保安庁、自衛隊など関係する複数の機関からご参加いただき、試行コースを実施する。なお、本コースは MCLS コースで学ぶ多数傷病者対応の概念をさらに発展させたものなので、参加者は MCLS 標準コース受講済みの方に限定する。

日 程：2014年2月24日（月）

時 間：9：00～15：00

会 場：東京医科歯科大学内（ホームページでご案内します）

参加資格：MCLS 標準コース受講済みで学術集会参加の方

参加人数：32名

参加費用：1,000円

参加申込：ホームページでご案内します。

d) 災害医療認定薬剤師研修会 (PhDLS; pharmacy disaster life support) (試行コース)

近年、薬剤師は災害医療において必要であると声が多く聞かれる一方、十分に対応できる薬剤師の育成も求められています。世界的にも災害医療の位置づけが見直されており、すべての医療者は災害医療に関して知識を持つべきであると求められています。そこで、すべての薬剤師に向けた、災害医療基礎標準コース (PhDLS) を開催します。すべての医療者が知っておくべき災害医療についての基礎的標準的なコースで、薬剤師に必要な知識に特化したコースです。災害医療に興味のある全ての薬剤師が対象となっています。

日 程：2014年2月24日(月)

時 間：13:00~18:00

会 場：東京医科歯科大学内(ホームページでご案内します)

参加資格：薬剤師

参加人員：60名程度

参加費用：10,000円(学術集会参加者1,000円)

参加申込：ホームページでご案内します。

e) 日本集団災害医学会 学生部会(仮称)

目 的：災害医療に取り組みたいと感じている全国の学生に対して、災害医療について考える場を提供するとともに、参加者個人相互および大学間の関係を構築することで、今後の参加者個人の災害医療に対する関心の向上と、学生部会の活動の発展に寄与する。

主 催：日本集団災害医学会 学生部会(仮称)

実施日：平成26年2月23日(日)

会 場：東京医科歯科大学

《タイムスケジュール》

9:30~10:00 受付

10:00~10:20 オープニング

10:20~11:10 【学生講演】各大学での災害医療の取り組み

演者：福島県立医科大学、日本赤十字看護大学、浜松医科大学(予定)

11:10~11:40 【基調講演①】PFAサイコロジカルファーストエイドについて

演者：河嶋讓先生(厚生労働省 社会・援護局)

11:55~12:45 【Luncheon Seminar】国際緊急援助隊医療チーム1次隊の活動

演者：中務智彰(奈良県立医科大学)

13:00~15:30 【トレーニング実習】①トリアージ実習 ②避難所運営ゲーム

15:45~16:25 【基調講演②】福島よろず相談、リスクコミュニケーションについて

演者：小早川先生（DMAT 事務局・国立病院機構災害医療センター）

16：30～17：00 学生部会の活動の紹介、新年度の体制、修了試験

17：00～17：30 クロージング、修了証交付、写真撮影

18：30～ レセプション

運営役員：

実習担当講師：久野先生、小原先生、小早川先生、仲佐先生、中田先生（五十音順）

フォーラム代表：中務智彰（奈良県立医科大学）

会場・受付チーフ：赤星昂己（東京医科歯科大学）

トリアージ実習チーフ：守本陽一（自治医科大学）

Workshop・HUG チーフ：加藤渚（東京医薬専門）

講師担当係：鈴木優奈（日本赤十字看護大学）

会計：浦穂高（東京医科歯科大学）

トリアージ実習：齋藤岳尋、塩澤、東京医療保健大学生

避難所運営実習：小笠原智子（日赤看護大）、武田理沙（日赤看護大）、  
岡崎秀昭（愛知医科大）

諸費用：一般参加学生、運営学生問わず、昼食代込みで 1200 円を徴収し、運営費とする。

参加人数：合計 102 名（予定）

一般参加者：72 名（トリアージ実習 24 名、避難所運営ゲーム 48 名）、

運営スタッフ：約 30 名

## ポストコンgress企画

### NDLS コース

米国における災害医療の標準教育プログラム National Disaster Life Support（NDLS）を開催いたします。災害医療の基礎から最新の専門分野までを座学形式でわかりやすく講義する Basic Disaster Life Support（BDLS）コースと、BDLS で得た知識を元に更に実践的な実習を組み込んだ Advanced Disaster Life Support（ADLS）コース、NDLS のインストラクターとして活躍する方のための NDLS インストラクターコース、計 3 つのコースを予定しています。会場はいずれも、東京医科歯科大学湯島キャンパスです。

#### 《第 5 回 BDLS 東京プロバイダーコース》

日 時：2 月 27 日（木）8：30～17：30

会 場：東京医科歯科大学湯島キャンパス

内 容：座学のための約 8 時間の災害基礎コースです。災害医療に興味のあるどなたでも参加可能です。日本語の講義・スライドでおこないます。

参加費：12,000 円（学術集会参加者 2,000 円）

《第7回 ADLS 東京プロバイダーコース》

日 時：3月1日（土）9：00～18：00、3月2日（日）8：30～16：00

会 場：東京医科歯科大学湯島キャンパス

内 容：座学とシミュレーターを使った実習、トリアージ訓練を含む2日間の応用コースです。BDLSの受講歴がある方のみ参加出来ます。

参加費：60,000円

《第5回 NDLS インストラクターコース》

日 時：3月3日（月）8：30～12：30

会 場：東京医科歯科大学湯島キャンパス

内 容：将来インストラクターになる方のためのコースです。ADLSの受講歴が必要であり、原則医師の方が対象です。

参加費：20,000円

※上記3コースの詳細につきましては、NDLS グローバルトレーニングセンター日本事務局のホームページ (<http://www.ndls.jp/>) をご参照ください。

【ご留意】

プログラムやセミナーの内容につきましては、今後変更になる可能性がございますので、最新の情報は学術集会ホームページ (<http://web.apollon.nta.co.jp/jadm19/>) にてご確認ください。

事 務 局：第19回日本集団災害医学会総会・学術集会 事務局  
〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45 東京医科歯科大学内  
TEL：03-5803-5102 FAX：03-5803-0137

運 営 事 務 局：第19回日本集団災害医学会総会・学術集会 運営事務局  
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル5階  
株式会社日本旅行 西日本MICE営業部内  
TEL：06-6342-0212 FAX：06-6342-0214 E-MAIL：[jadm\\_19@nta.co.jp](mailto:jadm_19@nta.co.jp)